

## 神の真実

コリントの信徒への手紙Ⅱ一章15～24節

あなたがたの間で宣べ伝えた神の子イエス・キリストは、「然り」と同時に「否」となったような方ではありません。この方においては、「然り」だけが実現したのです。(19)

パウロが熱望していたコリント行きを断念せざるを得なくなったとき、コリント教会からは、パウロが「然り」と「否」を同時に言う「二枚舌」、「うそつき」という非難の聲が上がりました。パウロは自分の立場を弁護しようとはしません。自分は何と言われてもよいのです。しかし、自分が宣べ伝えたイエス・キリストからだけは離れないで欲しいと語ります。たとい自分は不真実であっても、神は真実な方だからです。神の真実は、ある状況では「然り」、他の場合は「否」となるようなものではありません。神に拒絶されても仕方のない者たちが、キリストのゆえに「然り」、すなわち「あなたは生きてよい」と告げられたのです。私たちも皆、神の大いなる「然り」の声を聞いた者たちではないでしょうか。この変わることに神の真実に今日も信頼しようではありませんか。